

5-1 未来塾対応WG

1. 未来塾対応 WG の概要

(1) WG の活動目的

未来塾は、国交省と建コン協が自由な意見交換を行う場として設置されたが、近年は、地方ブロック意見交換会における「要望と提案」の調整や、制度設計・運用上の課題解決に向けた協議の場としての役割が強まっている。今年度は、未来塾、未来塾補佐会、未来塾対応WGのあり方を再整理し、役割分担を明確化した。

(2) 今年度の基本方針

令和7年度は、制度面・運用面の課題について、本省との議論を通じた改善を図ること、将来を見据えた中長期的視点からの検討を重視し、業界の持続的発展に資する議論を行うことを基本方針として活動を行った。

(3) WG の構成（委員）

WG長は常任委員長、副WG長は常任副委員長、委員8名の計10名で構成されている。

2. 主な活動の記録

(1) 未来塾対応 WG の開催実績

定例常任委員会と同日に開催し、令和7年4月～令和8年3月にかけて、月1回(8月休会)、計11回の委員会を開催した。

(2) 未来塾会議の開催実績

令和7年度は、12月11日に未来塾会議を開催した。

このほか、議題の整理や論点の事前協議を目的として、6月10日及び11月7日に未来塾補佐会を開催した。

(3) 主な検討課題

令和7年度の主なテーマは次のとおりである。

a) 生成AIによる成果物の活用

生成AIによる設計成果物の活用について、業務の公平性や著作権への配慮を踏まえた検討を行った。現状では成果物のオープン化が進んでいないことから、当年度は情報公開請求を前提とした活用とし、ユースケース整理や活用ガ

イドライン（仮称）の検討を進めた。

b) コンサルタント版スライド条項

適用範囲や運用方法、モニタリング・フォローアップについて意見交換を行った。

c) 業務評定点格差

業務評定点の格差実態を把握するため、例年どおりデータ収集・整理を行った。

d) 納期平準化

業務集中の是正に向け、発注時期や工期設定の現状整理と課題抽出を行った。

e) 賃上げ加点廃止

制度見直しの動向を踏まえ、賃上げ加点廃止がコンサルタント業務に与える影響整理を行った。

f) 技術提案・交渉方式のコンサルタント業務への適用

賃金・労務費等の実態調査を含め、技術提案・交渉方式の適用可能性について意見交換を行った。

g) 低入札価格調査基準の引き上げ等

低入札価格調査基準の見直しを踏まえ、総合評価方式や技術評価点のあり方について検討した。

h) プロポーザル業務の入札調書について

プロポーザル業務における入札調書の現状整理を行った。

i) 設計成果の品質向上と設計・施工のシームレス化に向けた検討

設計成果の品質向上と設計・施工連携強化に向け、先行事例を踏まえた意見交換を行った。

3. 次年度の活動について

次年度においては、引き続き各検討課題について議論を深めるとともに、地位向上検討委員会とも連携しながら、調査・検討を進める。あわせて、社会情勢や制度動向等を踏まえ、必要に応じて新たな検討課題の追加についても検討する。

（未来塾対応WG WG長 河村 成人）